

## 令和 2 年度 事業報告

今年度は世界中を震撼させている「新型コロナウイルス」が施設全体に大きく影響した一年でした。今までの日常が送れず、会いたい時に家族に会えず、外出もできず、研修・行事等も中止せざるを得ない一年となってしまいました。未だ収束のめどがたたない事態ではありますが、利用者の命を守るべく、健康管理の徹底と環境整備を整え、職員一丸となり感染予防に努めてまいりました。

利用者の中から新型コロナウイルスの感染者を出すことなく、今年度を締めくくれることに安堵しております。また改めて当法人事業の社会的責任を真摯に受け止め、どのような状況下においても、利用者の健康、生活を守りぬく事業の重要性を再確認致しました。

### 介護老人福祉施設ゆうわ

今年度の稼働率におきましては、平均稼働率 95%、平均介護度 4 をキープする事ができ、一昨年よりもわずかではありますが向上する事ができました。

一昨年から「ユニットケア」を少しずつ取り組み進める中で、浮き彫りとなった課題として、介護と看護の間で入居者に対する支援の方向性や思いに、些細なズレが生じている事でした。些細なズレでも入居者にとっては大きな変化に繋がる可能性がある事から、今年度の取り組みとして、週に一度嘱託医、看護師、課長、介護支援専門員でのミーティングの場を設置し、情報共有はもちろん、入居者に対する支援の方向性、思いを統一する足がかりになったと実感しています。早期に状態変化に気づき、入院の回避や、入院の短期間での退院に繋がり、稼働率にも良い影響を及ぼす事ができました。

また新型コロナウイルスの感染対策の一つとして、家族様の面会を中止せざるを得ない状況となり、孤独感やストレスを感じる入居者が大勢いる中、それぞれの職員がコロナ禍の中でも【入居者を笑顔にしたい】との気持ちを忘れず、感染対策を取りながら、食事レクや行事を開催し、入居者の満足度を高める努力を行いました。

家族様へ対しても、リモート電話の活用、毎月入居者写真を送付、3 か月に一度居室担当からの手紙を送付する事で、会えなくても不安を感じる事なく、詳細に状況がわかる体制を整える事ができました。

未だ新型コロナウイルスが収束するめどが立たない中、感染対策の徹底を継続し、利用者・家族様が安心し、笑顔で過ごせる環境を整えて参ります。

稼働率におきましても、待機者の状態把握に努め、選んで貰える施設を目指して取り組んでまいります。

## ショートステイゆうわ

今年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、新規の受け入れを中止するなどの対策を取らざるを得ない状況の一年となりました。

ロングステイ利用の受け入れ、緊急ショートステイ事業の継続を行い、できるだけ稼働率を確保するよう努力はしてまいりましたが、安定した稼働率には繋がる事ができず年度末を迎える事となりました。

コロナ禍の中でのショートステイの運営について、いろいろと悩み考え、どのような対策を取る事で安心した環境を提供、実施できるのかを日々考えて参りました。

どのような状況でも、困った方がいれば受け入れる、必要と感じて貰えれば受け入れる為のショートステイ事業であるにも関わらず、受け入れる事が出来ないもどかしさを痛感する日々となってしまいました。

その中でも、ご利用くださった利用者の為に、感染対策の徹底を行い、職員一人一人がホッと安心できる雰囲気作りを行い、体操や手作業など選べるレクリエーションの提供を行い、利用者の満足度を上げる努力を行ってまいりました。

リピート率を上げ、選んで貰えるショートステイを目指すと共に、コロナ禍の中でのショートステイ事業の在り方を確立し、来年度は安定した稼働率に繋げて参りたいと思います。

## 有料老人ホームゆうわ

令和元年12月に入居定員を50床へ増床しましたが、職員数の確保に困難をきたし、10床の受け入れが今年度も行えていない状況であります。

引き続き採用活動に尽力を尽くし、一日でも早い10床の受け入れが出来るよう努力して参ります。同時に待機者の確保にも力を入れ、円滑な新規入居へ結びつくよう努めて参ります。

住宅型でオープンした有料老人ホームが、特定入居者生活介護へ変更となり約3年が経ち、有料老人ホームゆうわとしての在り方を再検討する一年となりました。入居されてから最期の看取りまでその方らしく過ごして頂く事をモットーとし、それぞれの多種多様なニーズにどのように答えていくのかを考え直した一年となりました。

入居者一人一人、オンリーワンのケアプランを作成していくという目標を掲げ、カンファレンス内容を再検討し、センター方式の書式を取り入れ、専門職が一丸となってそれぞれが入居者の事を存分に知る事からスタートしました。この入居者はこういう事を考

えていたのか、こういう物、事が得意なのか、こういう事が嫌だったのか等の些細な情報を知り、共有する事で、情報が密になり、その人にあったプランを作成し実践していく事で、日々の笑顔ある生活に繋がる事となりました。まだまだ序章、引き続き来年度も切磋琢磨しながら取り組んでまいります。

また令和2年9月に常勤の理学療法士が入職しました。今まで多くの入居者が希望していた個別機能訓練の実施を実現する事が出来、ADLの維持、向上に繋がると共に、満足度を上げる事ができました。

10床の受け入れの為の年間計画を作成し、一日も早く新しい入居者を受け入れる事ができる体制を整えて参ります。

## デイサービスセンターゆうわ

今年度から「認知症加算」の取得がはじまり、対象者に向けた「認知症の方への実践的アプローチ」を行うべく様々な準備を進めておりましたが今般のコロナ禍による諸々の事情もあり、思うようなプログラム遂行には至りませんでした。それでも個別対応を軸とした回想法や計算+同時運動など多くの時間を認知症ケアにあてることができ、今後の目指す方向性を明確に示すことができたと感じております。感染予防で自主的にお休みをされた利用者様以外にも、利用者様に不自由な利用をお願いしてまいりましたので、稼働率は70%程度、実績も前年度10~20%減となりました。

また、4月、12月と2度にわたり「新規様・体験利用者様の受入れ」を一時中止させていただき、この間、コロナ禍におけるリスクを記したアンケートを実施いたしました。万が一のリスクを懸念される場合にはお休みいただきますようにとお伝えする内容であったにも関わらず、ほとんどの方が休みませんとの意思を伝えてくださいました。改めてデイサービスの存在意義について理解し、この現状化において、何をすべきかレクリエーション縮小化の中、いかに楽しみ、健康的に過ごしていただけるか職員一丸となって引き続き検討してまいります。

## <ケアハウス グリーンシティ秀和>

令和2年4月以降、入院によりケアハウスでの生活が困難になり退去される方が増加しています。また、身体機能・認知機能が低下に伴い介護付施設を検討される方も増加しており、稼働率が低下しています。

ケアハウス見学者数が著しく減少しているため、ケアハウス入居に繋げるのが難しい状態となっています。

今後は、ケアハウス入居対象者の見学を促すため、地域包括支援センターや関連施設訪問して紹介を依頼する予定です。

## <ケアプランセンター秀和会>

職員の退職により、令和2年9月から職員2人体制で運営をしております。

稼働率については、併設するケアハウス入居者を担当している事もあり、ケアハウス入居者の入院者数増加に伴い、稼働率が低下しています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い新規利用者の契約を制限していましたが、職員の感染対策を見直し、令和2年10月以降は通常通り新規契約を受付しています。

今後は、地域包括から紹介など新規契約を受付しつつ、ケアハウスとも連携して入居者の新規契約についても並行して受付して、職員2人体制で稼働率を安定したいと考えています。

## <つどいの広場秀和>

令和2年4月より、大阪市委託事業として運営しています。

緊急事態宣言により一部休業(来館中止)していたため、令和2年6月から子育て親子の受け入れを開始しています。開設当初は、知名度が低さや、新型コロナウイルス感染拡大に伴い子育て親子が外出を控える傾向があったため、稼働率が低い状態でしたが徐々に稼働率は高くなっています。

運営については、大阪市役所・鶴見区役所と協議して、利用定員を午前15組×2回、午後9組×1回の利用とし、利用時間毎に館内やおもちゃの消毒をしています。

今後も、利用する子育て親子に安心して交流して頂けるよう、館内の消毒を徹底します。また、子育て親子同士の交流を促せるような、イベント企画や館内装飾を実施します。